

都立学校で子どもたちの成長を見守る 非常勤学校看護師としての働き方



医療的ケア専用通学車両に生徒が乗車する様子。



乗車したらまず生徒の体調をチェックし、連絡帳に書き込む。

医療的ケアを必要とする児童・生徒が安全に、安心して学校に通うために――。

東京都教育委員会では、痰の吸引、経管栄養、酸素管理などのケアを行う学校看護師を配置しています。東京都立村山特別支援学校で非常勤看護師として働く中嶋有香さんに、業務内容や働き方について話を聞きました。

子どもたちが安全に学習できる環境をつくるため、教員と看護師が連携

都立村山特別支援学校の3階。高等部の教室に登校してきた生徒に「暑かった?」と、やさしく声をかけをする中嶋さん。バイタルサインをチェックし、普段と様子が違わないかを確認します。「担任の先生と連携しながら、子どもたちの状態をみています。看護師の視点と、いつも子どもと接している教員の視点、両方が合わさって気づけることもあるんです。児童・生徒が安全に学習できるようにお互いにアドバイスをするなど、協力しています」(中嶋さん)。

通常の勤務時間は早番(7:00~15:30)と遅番(8:45~17:15)の2パターン。複数名の非常勤看護師が、シフト制で勤務しています。



昼食前には、教員と協力して胃の内容物の状態を確認。

取材協力

東京都立村山特別支援学校

〒208-0012
武蔵村山市緑が丘1460番地1
TEL 042-564-2781
<https://murayama-sh.metro.ed.jp/site/zen/>



専用通学車両に乗り、児童・生徒の登下校を支える

中嶋さんの業務で特徴的なのが、医療的ケア専用通学車両に乗車すること。現在、都立村山特別支援学校には医療的ケアを必要とする児童・生徒38人が通い、9コースの専用通学車両が運行されています。

「児童・生徒の登校時と下校時に、一緒に車に乗ります。車中には、児童・生徒と運転手と私だけ。校内のように、ほかの看護師や教員がいるわけではありません。そのぶん、緊張感がありますね。急変時の対応を常に頭に浮かべるようにしています。児童・生徒が安全に通学するためにはどうすべきか、同じく専用通学車両に乗車をしている非常勤看護師と情報交換をしながら、一緒に考えています」

子育てとの両立を考え、非常勤の学校看護師の道へ。ライフスタイルに合わせた勤務が可能

もともとは大学院や総合病院で小児科、産婦人科の看護師をしていたという中嶋さん。

「2人目の子どもを出産した際に一度離職しました。子育てと病棟勤務を両立させるのは難しく、特に子どもが小学校に入ると夜勤もしづらくなります。しばらくして、母が見つけてくれたのが都立特別支援学校の非常勤看護師の募集。長期休みがある学校での勤務、そのうえ非常勤ならば働きやすいと思い、応募するこ



医療的ケア専用通学車両に乗せている酸素ボンベや吸入器などの物品は、定期的に点検を行う。

としました。子どもと過ごす時間が確保できるので、子育て中の方には特におすすめしたいですね。朝の登校便の乗車時だけでなく、皆さんライフスタイルに合わせて働いています」

中嶋さんは現在まで18年間、都立村山特別支援学校で勤務し続けています。「小学校入学時から知っている子を、高校卒業まで見守ることができたのはうれしかったですね。みんな本当にかわいくて、まるでわが子のように。街で卒業生や保護者とばったり会うこともあります。児童・生徒の成長を見られるのが、この仕事のなによりの喜びだと思います」



東京都立村山特別支援学校 総合非常勤看護師
中嶋有香さん

「一緒に働いている学校看護師のなかには、小児科で勤務したことがない人や、プランクがある人もいます。経験がないと不安に感じるかもしれませんが、医療的ケアはマニュアルに沿って行います。また、東京都の研修のほか、校内でも研修が実施されます。病院だけではなく、学校という職場もあるということを知ってもらえたらと思います」(中嶋さん)

都立学校の非常勤看護師を 現在募集中 問い合わせはこちら

東京都教育庁都立学校教育部
特別支援教育課医療的ケア担当
TEL 03-5000-7083

https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/staff/recruit/administrative/recruit_part_time_nurse_r6.html



募集についての詳細は
上記から確認できます。